

### 卒業論文目録

---

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

社会労働研究

(巻 / Volume)

29

(号 / Number)

3-4

(開始ページ / Start Page)

253

(終了ページ / End Page)

266

(発行年 / Year)

1983-03-20

# 卒業論文目録 (昭和五七年度)

## 第一部

(湯川ゼミ)

大津 功 ルソー思想に観る「市民」

草地 純子 商人として、妻として、相馬黒光

山口 健一 虚構の現代

小林 亜土視 法政にみられる現代民主主義の悲劇―暴力と退廃のなかで

吉原 啓一 民衆運動としての「大正デモクラシー」研究

馬場 順子 平塚らいてうにおける婦人解放運動の視点

(田代ゼミ)

清宮 徹 価値形態論と物神性論についての素描

香川 泰一 日本の高度成長期における成長金融の構造的性質

岩田 英久 戦後国際通貨体制―ドル、その地位の変遷とその国際通貨制度への影響―

井上 敬一 日本経済の地域構造―新潟市の産業構造と

渡辺 誠

大石 秀邦

高野 厚志

宮沢 明彦

政 金 克芳

大野 義雄

松村 茂

川上 弘行

(秋田ゼミ)

不当労働行為論

労使関係における均等待遇論

懲戒処分に関する類型的考察

争議行為論

(土生ゼミ)

中東産油国における経済開発と経済的成長、

発展を妨げるもの

パレスチナ問題の一考察

ラテンアメリカ革命と反革命―チリ革命の

その変貌―

人口高齢化が日本経済に与える影響

激化する日米半導体摩擦―既存の日米貿易

摩擦からの考察―

南北問題―低開発と格差

日本における食糧自給力―その多角的考察

と展望―

考察より―

齋藤 弘之 南部アフリカの黒人国家と真の独立

田中 淳二 鎌倉市財政の分析

坂本 洋一 ラテン・アメリカと多国籍企業

三宅 祐一 社会における地方公営企業の意義―交通事業の料金適正化―

田中 章友 タイ華僑に見るタイ社会への一考察―資本主義社会のモラルそしてモデル―

安西 昌弘 租税特別措置論

樋口 敏男 南アフリカ共和国におけるアパルトヘイト

竹本 宗子 財政再建と国債管理政策

影山 裕樹 東南アジア諸国のアセアンを媒介とした自主経済確立の方向

高島 弘至 地方公営企業の現状と料金決定

宮 森 茂 イラン革命における諸階層

雨宮 恒夫 米国・ソ連の「世界戦略」と80年代日本の「安全保障」―「防衛費問題」の一展開として―

郷野 浩 ブラジルにおける日本人移民社会

萩原 英男 不公平税制と一般消費税導入問題

(中林ゼミ)

外宮 勇仁 日本自動車産業における労資関係

鯨岡 秀行 日本の都市社会と人間

阿部 隆司 現代の中小企業問題と労働組合運動

千川 一男 産業社会の病理―人間性の回復をめざして―

(齋藤ゼミ)

佐田 健児 金利の自由化の動向とその諸問題

佐藤 修武 技術革新と支配構造の変貌

城野 聰 財政再建と福祉向上のための政府の役割―臨調基本答申をふまえて―

柴田 誠 地方社会の未来像

田中 伸幸 戦後国債政策における転換点

藤堂 稚彦 現代社会のイデオロギーと人間性の疎外

永井 博 財政投融資―その改革方向―

土岐 英二 都市化の進展と地域社会の変化―千葉県市原市の事例研究―

湯浅 幸男 大量国債発行とその影響及び展望

比嘉 千織 階級考―「人並み」の構造―現代日本の中流階級の実態と意識

宮嶋 礼子 「地域社会と家族」―現代社会と家族病理  
 寺川 弘一 都市構造の変化に伴う百貨店の立地戦略  
 下平 幸子 現代日本の社会構造と文化  
 沖本 祐子 都市社会の人間  
 江森 正 「教育問題と地域社会」―岡山県総社市における地域変容とその影響―  
 黒川 三千代 都市形成の論理  
 朝比奈 克行 地域社会の変容と都市問題―東京都練馬区  
 の事例研究―  
 斎藤 真樹子 大都市近郊地域の問題点  
 須沢 妙子 遊廓―吉原にみる遊廓の史的背景と都市機能

(平野ゼミ)

大石 寛 左利きの研究  
 鈴木 修平 トロンボーン総論  
 五島 建法 関税、その性格と影響  
 内田 治 アンケート調査にみる法政大学と神奈川大  
 学の学生像  
 長谷川 秀吾 人間至上主義的文化観・人間観の批判的検  
 討  
 高野 好弘 機能本位のエンターテイメント

中林 浩子 旅行体験によるアメリカの社会学的考察  
 余田 安弘 働く女性たちのライフ・スタイルについて  
 草加 康義 旅への小さな考察―50枚の旅―  
 仲川 徳子 空間へのノスタルジア―矮小な子孫の二つ  
 の空間との遭遇―  
 高亀 佐知子 私の好きなところ 鎌倉  
 岩瀬 純 自動車―社会的見地から見て―  
 岸 洋希 情報環境にみる社会現象  
 宮本 恵子 遊びにおける幼児の行動  
 伊藤 治久 ロック歓迎! そしてちよっぴりニューウ  
 エイヴ  
 牧内 隆泰 小説「一九八四年」と現代社会の虚構性

(中野ゼミ)

山岸 浩樹 「新情報産業」―ニューメディアの理論―  
 山本 元 食の文化論  
 小林 且典 飽和の時代の症候群  
 塚越 隆治 私の観た若者文化の世相考  
 伊藤 浩之 一学生を取り巻く環境  
 増沢 宏昭 ストレスとは何か? その発生メカニズム  
 を探る  
 真野 久美 氾濫する情報環境の現在

森 幸信 大衆芸能―落語について

國井文夫 現代のガリバー旅行記

春馬千佳子 私生活主義論の試み

山本裕子 私的感覚論集

渡邊 ゆかり 現代のコマーシャル・メッセージ

古澤賢治 怪獣ブームとプロレスブーム

坂 英子 日常に埋没する「情報行動」の発見

磯 佳生子 村上春樹私論

柴田 玲子 テレフォン・コミュニケーション

平沢 優子 都市空間としての渋谷

木村康徳 私的情報環境論構築のための断片的考察

齋藤真弓 出会いの社会学

百瀬 織江 ニューメディアとしての人間

石丸 伸 科学と技術の変貌

（金山ゼミ）

植元 広恵 空き缶問題を考える―京都市の場合

櫻井亮子 自然観の歴史の変遷

田中京子 環境教育を考える―日本の現状と将来への展望

高野泰匡 自治体都市計画の本質を探る―東京都を例にして

山本光昭 住民自治の視点からまちづくりを考える

稲村 貴 環境問題の思想的背景―より良い自然観の構築を目指して

高草木 俊夫 地域開発と地方財政―むつ小川原開発と鹿島臨海工業開発を例として

（三溝ゼミ）

島山 智 危機と人間行動（危機の時代）

石川 毅 現代社会に形成された若者たち

小林 敦 攻撃心と平和について

高橋 充夫 「テレビ」が幼児に与える影響

長沼 清弘 現代企業組織における新中間層

渡辺 慎也 都市問題を中心とした社会問題の諸相

島山 弘康 人類の向う方向と地球社会の実現について

寺田 肇 パーソナルの社会進化論

森田 充浩 日本人の宗教感覚

稲川 真理 たかが文化、されども文化

（高橋ゼミ）

佐々木 淳一 第三次世界大戦―その兵器、様相、そして防衛―

田代 幸弘 戦前日本財政史における高橋財政の考察

土屋雅史	日本におけるペンションの実態と展望	白木繁夫	近代日本官僚制の相対的独自性について
中村千博	現代著名小説家、文章家に見る表記法とその効用	黄錦泉	国家総動員体制創出過程を中心として
深山保	田中角栄論	萩原由縁	鴉片戦争と黒船事件
村川秀行	軍縮について	星井玲子	政党内閣確立期における原敬
伊藤涉	現代における少年非行問題―校内暴力―	三島早苗	「婦人雑誌」ジャーナリズムの歩み
遠藤春幸	東京裁判	金子幸也	関東大震災が歴史に及ぼした影響
川口博之	オイルショック以後の日本経済	小林裕幸	国家機構としての天皇制
熊井誠	防衛問題	森秀子	日本ファシズム形成期における政治構造
佐々木雅一	アイヌ人は原日本人である	山口志津子	原爆投下の政治的背景、そしてその後の動向
鈴木剛	『非行』について		関東大震災に於ける朝鮮人虐殺事件
室井孝浩	福島事件		
渡辺正人	幣原外交と激動の転換期		
坂井俊朗	島原・天草の乱		
清水徹	維新の中の民衆―秩父事件―		
吉川正章	石油文明		
吉田茂	日本国憲法の平和主義と防衛政策		
斎藤孝子	明治・大正期における女子教育の特質と変換の過程―婦人教育家、津田梅子と女子教育―		
布施直樹	経済大国日本の奇跡的發展―根源的側面からの要因探求―		
		楠健太郎	家族機能の社会化をめぐる
		松尾康弘	古代社会における共同意識と個人意識
		的射場明子	宗教意識におけるパラダイムの転換
		岩淵博英	資本制社会における自我の閉塞状況
		喜多清嗣	平和探究理論の構築と21世紀のシナリオ―物質的価値観から精神的価値観への昇華を

(田中ゼミ)

観念関係論

攻撃の社会心理学的考察―E・フロムの視座を基礎として―

家族機能の社会化をめぐる

古代社会における共同意識と個人意識

宗教意識におけるパラダイムの転換

資本制社会における自我の閉塞状況

平和探究理論の構築と21世紀のシナリオ―物質的価値観から精神的価値観への昇華を

めざして―

(矢澤ゼミ)

石川宗伸 「エミール」にみられる教育論  
佐藤寿穂 公害問題における企業の論理に関する一考察

察

中島哲也 現代の病理―増加する青少年の自殺―  
橋爪宏 都市化の病理―都市化のもたらす家出―

平田明宏 リーダーに関する一考察

益田幸辰 家族の現状とその未来

江代雅彦 名古屋新幹線沿線公害訴訟問題

富塚泰之 合理化論の系譜―ウェーバー、ルカーチ、  
ハバーマス(学問の性格あるいは方法を基礎として)

浦野正男 私生活志向と民衆の主体性に関する一考察

(広田ゼミ)

宇佐美洋一 エコロジーと科学技術

大谷勝彦 都市における住宅問題

野津等 南北問題―発展途上国の自立に必要なもの―

安田宗広 弁証法はどういうものか、またその学び方

加藤久雄 工場における労働と疎外―オートメーション工場に注目して―

塩田伸 現代農村における共同体の意義―その歴史的変遷をふまえて―

道方伸二 ガルブレイスの大企業体制論―『新しい産業国家』の考察―

野村雄高 余暇についての一考察―レジャーブームから余暇時代へ―

関幸子 現代家族の危機―家庭内暴力少年をめぐって―

副島由貴 末期看護

山崎佳子 子どもたちの危機―現代社会における子どもの性格形成―

窪川珠己 教育の基盤としての地域社会

小林洋喜 日本における中小零細企業の増加要因

平野和典 中小企業の金融問題についての考察―信用金庫を中心として―

新山公一 コンピュータ産業の現状と将来の展望

鈴木敏 石油危機と日本経済の変貌

上田克己 多国籍企業の現状と諸問題―経営戦略を中

(相田ゼミ)

心にした考察―

- 木島利夫 半導体産業の台頭と日米間技術競争
- 坂本淳一 ソ連金売却の裏側
- 田中信康 国際通貨体制の崩壊について
- 浜野正裕 現代日本の金融再編成
- 由良秀明 日本語ワードプロセッサに関する考察
- 落合一良 現代日本に於ける中小企業の海外投資
- 石井清美 エネルギー危機下の日本石油産業
- 片井由喜子 OPEC諸国の現状と将来展望
- 神野常美 日本自動車業界の現状と展望

(稲上ゼミ)

- 稲葉砂織 自閉症に関する一考察―学説と原因をめぐって
- 黒野普道 現代女性の「自立」(生きがい etc.)に関する諸々の問題について
- 杉山光宏 つくられた人口抑制論と食糧危機
- 宮内克彦 動態的アノミー論―〈役割〉概念の再認識
- 森島誠 現代の女性の労働について
- 秋山肇 日本に於ける学歴社会の意味
- 川俣肇 高齢化社会における高齢者雇用―新しい社会システム形成のために―

豊永宏行 マス・コミュニケーションの効果

- 木山俊哉 経済摩擦に見る日本の弱点と限界
- 元山悟 地域主義と高度成長後の社会
- 渡辺晃彦 「メディアの多様化」についての考察
- 佐藤敏子 現代中小企業の変容―流通・外食・サービス産業の動向と実態

(公文ゼミ)

- 吉田千里 日本をめぐる貿易摩擦
- 榎本薫 日本自動車産業
- 佐藤公一 貿易摩擦問題に思う
- 藤井茂史 都市経済論の研究
- 山中一興 自由貿易と保護貿易
- 市川順子 中小企業の労働問題
- 柏原誠司 わが国中小零細企業政策の問題とその分析
- 舟久保健 国債の大量発行問題

(盛田ゼミ)

- 宇津宮靖 現代資本主義社会とサプライ・サイドエコノミックス
- 石川和宏 円・マルク比較論
- 榎本功 IMFと国際通貨制度



出店博文 貿易摩擦問題について  
 大川久弥 石油危機にみる日本経済の活力とその推移  
 中村啓 国際通貨  
 森田正浩 日本の現代小売商業  
 山下雅和 多国籍企業分析―その政治・経済力―

(板倉ゼミ)

小田裕之 財団法人理研設立にみる日本の科学技術政策  
 河村了 「日本文学史序説」加藤周一によせて  
 井馬寛人 閉じた文化と開いた文化  
 佐々木茂安 技術移転について  
 佐藤育弘 空き缶公害  
 小路誠 技術移転論―わが国の現状分析―  
 杉本吉庸 今後、わが国の科学技術はどうあるべきか  
 稲賢司 歴史社会学の理論とその証明及び、その考察による未来像  
 天城利也 ロボット

(大山ゼミ)

楠淳志 財源配分における中央政府と地方自治体―地方自治体のための行財政―

牟田清幸 高齢化社会における年金問題  
 川井貴正 年金問題を考える―公的年金と私的年金―  
 津久井康弘 地域医療の今日的意義  
 木田浩志 高齢化社会の到来と雇用問題―企業の中高年対策―  
 須賀秀哲 同和問題における諸相  
 外山良司 現代社会と青少年問題―受験教育の裏側と青少年社会の崩壊―  
 垣内裕稔 高齢化社会における老人医療問題  
 八村匡純 『非行』問題の一考察  
 羽田栄作 都市経営の現状と社会福祉行政における問題点  
 林貢作 現代の子どもたち  
 川口ひろみ 三世大家族を考える  
 神宮正 「非行」をうみだす社会環境と青少年の健全なる成長への考察  
 井上美幸 障害者問題と新聞報道―Y新聞の分析を通じて(一九八〇～八一年)―  
 松川孝雄 市民生活と水問題  
 沢本法子 障害者と健常者の間に生じる溝について  
 田中みどり 我国における国際障害者年の動向―M新聞の分析を通じて(一九八〇～八一年)―

太田 明	公的年金と企業年金の位置づけ
田中 久美子	わが国における国際障害者年の動向―S新聞の分析を通じて(一九八〇―八一年)―
高橋 裕己	地域自治福祉の考察(総論)
笠原 真紀子	高齢者の就労とその実態
川島 一月	女子労働と保育所問題
土屋 庄司	子どもと教育について考える
土屋 延子	日本の家族制度と老人問題
林田 浩太郎	統合とは何か Y M C A 小学生グループでのケース研究
戸沢 淳子	高齢化社会における女性の老後問題
楊 齊華	社会福祉の基本問題について一考察
平川 雅子	婦人の老後と社会保障―婦人の年金権を中心として―
荒井 透	現代社会と子どもの発達
洪 瑞瑾	児童養護問題における「施設の社会化」に関する一考察
嶋田 雅与子	現代社会における非行の原因に関する考察
中田 繁子	障害者における雇用と自立
原口 重雄	児童の遊びと成長
村田 信子	現代社会と子供の自殺について

(須藤ゼミ)

救 義弘	コンピューターと現代社会―その便利さと危険性―
坪田 尚紀	真贋のコミュニケーション論
岡田 勤	就職の私的一考察
山越 久美子	飛ぶのが怖い女たち―自立への歩み
渡邊 伊久子	百貨店の広告戦略―広告コピーの分析から―
今井 雅智	「新しい雑誌」論―活字離れ現象をストップさせるための雑誌に関する一考察―
金木 良樹	プロ野球に見る今日的ブーム論
伊藤 一枝	ジャーナリズムにおける女性論
栗原 博美	現代日本人論
香取 伸司	現代の教育に対する一考察―三宅島人間牧場にみた子供達の学校に対する不満―
鈴木 和子	学校教育の荒廃を探る
石沢 陽一	VANにみる日本アイビー変遷史―愛すべきボタングダウンボーイズへ―
沖山 康弘	ウォークマン現象
玉岡 大樹	野球と音楽
長井 憲明	若者のパターン化現象
志村 由美子	青年文化としての漫画に関する一考察

本井 武司 西アジア紀行

小野 明男

(岡本ゼミ)

串田 真宏 学歴主義社会の進行

福田 泰祐

西山 浩司 円の実力

森 雅巳

人見 敦 マネタリズムの考察

山田 洋子

金井 塚博 スタグフレーションの解明

西藤 信太郎

竹島 正巳 米国金融革命の実態と日本金融界の現状と

西藤 信太郎

革命の波

羽嶋 晴之

塚本 喜代子 社会選択のルールについて

羽嶋 晴之

渡辺 宏 現代アメリカの病理

羽鳥 義章

松下 省治 通貨の供給とコントロール

羽鳥 義章

篠原 昭彦 古典派から新ケインズ派に至る経済成長論

羽鳥 義章

鶴田 純一 テレビを析れ—現代情報化社会における

羽鳥 義章

「聖」について—

羽鳥 義章

(水野ゼミ)

(船橋ゼミ)

中野 好弘 日本人の朝鮮人観

岡本 明

難波 徹 現代マンガの流れと未来をさぐる

尾鷲 達美

小宮 千里 小女マンガの軌跡—雑誌の十年ごとの変化—

北風 浩

化—

土屋 朗裕

峰岸 洋江 『太陽の季節』『限りなく透明に近いブルー』に私達は何をみたか—龍を感じる時—

伊木 茂雄

—

伊木 茂雄

—

伊木 茂雄

—

伊木 茂雄

—

伊木 茂雄

—

伊木 茂雄

北の人間はなぜ南へ行くのか—現代社会における豊かさの意味について—

登校拒否に於ける主体性の回復について

犯罪の構造—通り魔犯罪を中心として—

新しい社会病理の背景—密着型母親の及ぼす影響について—

70年代若者音楽状況の変化とその意味について

昭和五〇年から昭和五六年にかけての流行玩具をみる—「超合金」から「エレクトロニクスゲーム」まで—

現代日本の夫婦役割関係を探る—Human Relationのルーツを求めて—

多摩ニュータウンの理想と現実

自閉症児と教育

地域と公共企業体—国鉄足尾線を事例として—

自閉症児の生活環境とその親達

自閉症児の療育とボランティア活動—水泳教室と療育キャンプへの参加経験から—

榎本 登 「小さな政府」と行政改革

(大野ゼミ)

石川 英洋 戦後の保守政治と農村

大阿久 泰子 離婚を考える―「クレイマー・クレイマー」

に見る女の自立―

木崎 正和 アマチュアリズムと教育における高校野球

論

西井 健一 パートタイマーの実態と問題点

山口 博規 高齢化社会にむけて考える―(公的)年金

制度の現状と課題―

安藤 瑞孝 出稼ぎ労働者からみた、失保改正の歴史と

雇用保険法

宮 成 勇 ベビーホテル問題を契機として表面化した

保育問題

横 沢 宏和 技術革新論―日本のロボット導入の現状と

問題点―

伊 藤 岳 巳 日本における賃金問題

佐 藤 哉 志 「日本における貧困について」日本の住宅

問題の現状と対策―なぜ住宅問題なのか―

丸 茂 すみ代 産まない自由を！―優生保護法をめぐつ

て―

天 野 弘 昌

地域社会におけるボランティア活動

横 山 由美子

老人問題―「恍惚の人」を読んで老後を考える―

平 沢 治

現代日本における「貧困化」と「保守化」の問題について

吉 田 一

「労働者派遣事業」問題の検討

岩 橋 太郎

高齢化社会における中高年齢者の雇用問題―雇用政策を中心とした「雇用保障」の社会的あり方について―

(林ゼミ)

関 口 雅 文

会社の解散と不当労働行為について

横 山 英 世

採用内定

瀬 川 桂 子

年次有給休暇の利用目的と時季変更権

青 島 秀 行

平和義務

弘 中 政 孝

臨時組合費の徴収の正当性についての考察

川 井 規 子

我が国の時間外労働の実態と三六協定

(藤本ゼミ)

小 林 大 樹

都市化の中の農業―静岡―

瀬 谷 安 弘

根釧原野―別海酪農調査から―

矢口博己 別海酪農の全貌

(松田ゼミ)

成清裕一 斉藤隆夫論

明石淳 イスラエル建国史

岩切久美 有事立法が狙うもの

黒川雅司 日ソ漁業関係の変遷と二〇〇カイリ体制下の現状

久保寺厚 日本の平和への道

滝本敏夫 スカルノの「ナサコム理論」について

小田切修一 ファシズムと大衆操作―「ネオファシズムの前段階としての大衆操作」分析―

川並満徳 核Ⅱ平和問題について考える

菅原浩一 教科書問題と教育政策―何故教科書が狙われるのか―

(吉原ゼミ)

松原洋一 現代社会とマスコミュニケーション論―事件とカタルシス―

上田哲司 ニュー・メディアのコミュニケーション

小松忠人 現代は情報社会といえるか

茂野孝道 現代の音楽制作・伝達における規制のシステム

大川宏子 怖える人間の姿―その逃避的行動―

坪岡由香里 情報化社会の心理構造―現代人の孤独と不安―

榎本純子 言語活動におけるコミュニケーションについて

鷹部屋荘平 現代ミニコミ論序説

卒業論文目録(昭和五七年度)

第二部

(土生ゼミ)

鶴田川正 アメリカ対外援助の歴史的展開と本質

高屋洋二 開発途上国への援助がもたらす債務累積問題

山口吉平 多国籍企業と発展途上国

菰田吉晴 米国における黒人差別撤廃に挑んだ黒人の

意義と行動について

市東利信 対外援助の現状と南北問題の新展開  
須江英樹 発展途上国の経済的自立と多国籍企業への影響

影響

関口和英 日英帝国主義下における民族解放運動

千田隆志 新植民主義における資源の役割

額田俊 我が国の経済協力の現状と今後の課題

松本悦次郎 多国籍企業と第三世界

石井重之 日本の未来と対外援助

佐藤博 放送受信料制度拒否の論理

松原寿一 媒体間秩序の転換秩序―「ニューマガジン」と「ニューメディア」の接点―

吉岡弘二 色彩によるコミュニケーション論―色彩マ

ーケティングの充実へ向けて―

安西伸一 プロレス・その構造とブーム論―プロレス

のメカニズムとブームの正体を明らかにす

る―

坂本克己 現代若者論

(高藤ゼミ)

三浦敬 日本人の休暇について

竹内彰一 価値意識と内的時間観

(公文ゼミ)

斉藤秀樹 オイルマネー・日本への還流

尾形利夫 女性問題の考察とその展望

(船橋ゼミ)

金子秀和 青少年の非行問題―現状・原因・対策―

松倉普一 川崎公害訴訟と環境行政の問題点

菅原喜代 情報処理技術の発展と労働

(大山ゼミ)

平川京子 老人の労働とその意義について

(庄司ゼミ)

佐藤昭彦 障害児教育―養護学校義務化をめぐる二潮流

(須藤ゼミ)

河原塚悟 児童図書館の理想を求めて

井口佳子 高齢者問題―一人暮らしの女性老人

和田 英 治 高齢化社会における公的年金、企業年金および退職一時金の役割  
岡 部 美奈子 都市化された地域における現代農業高校生像

（宮村ゼミ）

清水 達 養蚕業の現状と問題点への考察（共同作品）  
小板橋 秀雄 飲用牛乳の流通と消費―流通構造における牛乳専売店の経営状態―  
宮崎 美枝子 牛乳専売店の経営状態―  
多 久 和 斉 島根県の農業問題と農協の機能  
菊 地 直 人 日本人の食生活の構造についての考察

（吉田ゼミ）

石 田 博 英 七〇年代選挙における国民と政党―議員は真の国民代表であるのか―  
木 内 康 之 現代地方自治の考察  
曾 根 史 人 戦前における社会主義運動―無産政党を中心として―